

オープンキャンパス大盛況



2025年（令和7年）

9月号

発行
青森大学
広報室

〒030-0943
青森県青森市
幸畑2-3-1
TEL 017-738-2001
FAX 017-738-0143

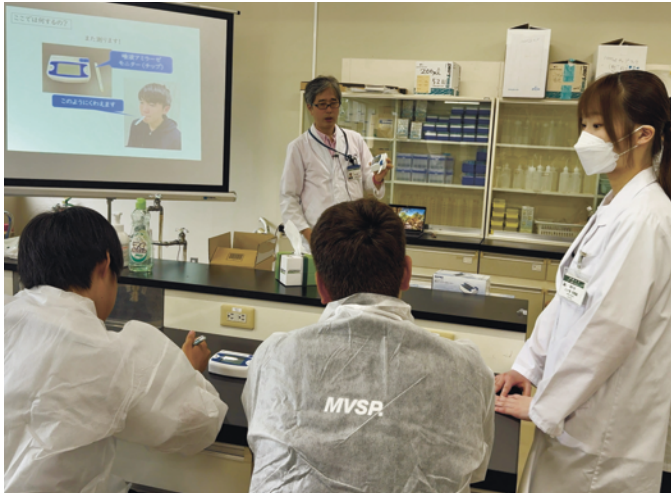


高校生や保護者300人参加

模擬授業や就職講話

本学が5月から8月までに計5回開催したオープンキャンパスに、約300人も高校生や保護者らが参加した。総合経営学部、ソフトウェア情報学部、薬学部の3学部を見学したほか模擬授業も体験した。進学先や学部選択

に迷っている高校生らにとって貴重な経験となった。5回のオープンキャンパスのうち5月11日の第1回は薬学部、5月18日の第2回はソフトウェア情報学部、6月14日の第3回は総合経営学部とソフトウェア情報学部で実施。7月6日の第4回と8月9日の第5回は3学部すべてが対象となった。参加者の内訳をみると、高校1・2年生の参加が目立った。早くから高校卒業後の進路をイメージするためとみられる。3年生に対しては、入試が迫っているため面接など



薬学部での体験型模擬授業の様子



学部の新コースを紹介する佐々木淳一副学長

学・総合経営学部
新コース
しっかりと根を張って
戦略を立てていこう～

青森大学
佐々木 淳一

**WEB出願や
問い合わせ続々**

来年の入学者選抜
2026年入学者選抜のWEB出願が始まった。9月2日から受付の入試区分は、総合型選抜第一期・むつ下北未来創生選抜【総合型選抜1期】となる。ほかの入試選抜区分の出願期間は、本学のホームページ「受験生サイト」で公表している。

具体的に入試対策を初めてメニューに盛り込んだ。昨年からの取り入れられている交通費補助制度が浸透し始めたことよって、県内からの参加に加え、県外エリアの高校生も大勢詰めかけた。

8月のオープンキャンパスでは、夏祭りの雰囲気を出すため、キッチンカー3台を呼び込み、参加者らが楽しい時間を過ごした。

高校生にとって関心があるのはキャンパスライフだけではなく、大学卒業後の進路も大学選抜や学部選択の重要な要素となる。今回は就職活動が順調に進んだ各学部の4年生、6年生が自らの実際の体験を高校生らに披露した。

本学は8月26日、むつ市、むつ商工会議所、青森みちのく銀行と、産学官金インキュベーションプラットフォームに関する連携協定を締結した。締結式は青森みちのく銀行本店で行われ、山本知也むつ市長、内田大輔むつ商工会議所会頭、石川啓太郎青森みちのく銀行頭取、澁谷泰秀青森大学学長が出席した。

新規事業創出や企業成長支援を通じ地域経済の活性化を図り、産学官金が連携し起業支援や人材育成を推進することを目的としている。本学の役割は地域課題研究、人材育成、研修・教育資源の提供とし、地域の活力が生まれるように取り組む。



むつ市×むつ商工会議所×青森みちのく銀行×青森大学
CROSS QUAD
～4つの領域（産学官金）を掛け合わせ新たなビジネスモデルを創出する～

2025年度あおりんプロジェクト 採択プロジェクト一覧

地域貢献

- ・総合経営学部2年 蛭名 翔琉（青森南高卒）
津軽線プロジェクト
- ・総合経営学部3年 三浦 紗綾（中央国際高卒）
手話でつむぐあおりん
- ・社会学部1年 吉田 風和（青森山田高卒）
ご当地キャラクターで地域振興
- ・社会学部3年 沼澤 幸織彩（田名部高卒）
子どもの居場所お助けプロジェクト
- ・社会学部3年 山上 済民（青森山田高卒）
ぬい撮り郷土学習事業の展開
- ・社会学部4年 塩崎 佳那（青森山田高卒）
読み聞かせて下北を盛り上げよう

教育・研究

- ・総合経営学部3年 倉内 唯翔（青森山田高卒）
「青森大学」ブランドの日本酒づくりプロジェクト
- ・社会学部4年 シュユイシ（東京富士語学院卒）
東京キャンパス統計グラフ研究会
- ・ソフトウェア情報学部1年 齋藤 翼（青森西高卒）
学生の学習環境の整備
- ・ソフトウェア情報学部2年 七戸 孝介（大湊高卒）
Campus Dialogue Lab
- ・薬学部5年 高橋 佳輝（青森南高卒）
口腔内細菌叢の全身疾患への影響の検討

イメージアップ

- ・ソフトウェア情報学部3年 菅野 文香（福島県立橋高卒）
3Dプリンター可能性追求プロジェクト III

キャンパス

- ・社会学部2年 横岡 美和（青森山田高卒）
A.G.7(青大ガーデニング七号館前)プロジェクト
～あたらしい青大を自分たちの手で～

学生の意欲や好奇心を形に あおりんプロジェクト

本学では、「学生が輝く大学」推進のため、学生の挑戦を後押しする教育プログラムとして「あおりんプロジェクト」を展開している。

9年目の同プロジェクトが今年度もスタートし、多彩な企画の中から13件選ばれた。採択された団体は、大学のサポートや一部活動資金を受けながら取り組んでいく。本学むつキャンパス1



左）年生の吉田風和さん（写真）が代表を務めるプロジェクト「ご当地キャラクターで地域振興」では、下半島の地域振興と子どもたちの地域への愛着心を育むことを目的としている。下北のご当地キャラクターの知名度向上のため

ご当地キャラで地域振興

むつキャンパス吉田風和さん

め事業や子どもたちがご当地キャラクターと触れ合う事業を展開する。そのほか、本プロジェクトの「3Dプリンター可能

性追求プロジェクトIII」と連携し、ご当地キャラクターをフィギュア化する活動も実施する。現在は、下北地区の各市町村の運

株式会社東酸が後援

佐井村「うんたん」のフィギュアの試作品を作成する予定だ。

吉田さんは代表として、ご当地キャラクターと下北への愛を持って、取り組みたいとしている。

「あおりんプロジェクト」には、主旨に賛同する株式会社東酸から、助成金をいただいている。



ねぶた師 塚本利佳さん（右）と清野晏さん

8月23日に10周年記念幸畑ヒルズねぶた祭りが開催された。この祭りでは、本学社会学部3年の清野晏さん（青森西高卒）が代表を務めるねぶた制作サークルが、ねぶた制作に関わった。

清野さんは幼少期から青森ねぶたが好きで、季節になると毎日のように、ねぶた小屋に通って見学をした。この見学がきっかけで、ねぶた師塚本利佳

ねぶた師塚本さん声掛け 幸畑ねぶたづくりに参加

さんの大型ねぶた制作のサポートをしている。大学進学の際も塚本さんがねぶた制作を務める青森大学に決めた。幸畑ねぶた制作のきっかけも塚本さんからの声掛けだった。制作リーダーとして清野さんは「ねぶたを見てもらい、見た人へプラスの感情を与えられるように制作に打ち込んだ」と話していた。塚本さんは「この体験をきっかけにねぶた制作以外にも挑戦することが大事」と清野さんにエールを贈る。